

1 学校教育目標

豊かな心・感性・知性・体力を身に付け、世界に羽ばたく青井の子どもの育成

○よく考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の定着を図る学校 ・様々な体験を通して、豊かな心とあきらめないでやり通す強い心と、健康な体を育てる学校 ・保・幼・小・中の連携をより一層推進することで教育活動の充実を図る学校 ・地域社会に開かれた学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活習慣や家庭学習の習慣を身につけ、確かな学力を身に付けた児童 ・失敗を恐れず、何事にも積極的に挑戦し、自ら進んで心と体を鍛えようとする児童 ・社会のルールを理解し善悪の判断力・規範意識を身に付け、自信をもって中学校を目指す児童 ・相手を思いやることの出来る豊かな心をもった児童
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・服務に厳正であり、人権感覚を常にもち、自らの力を伸ばし続けられる教師 ・児童・教職員・保護者・地域の方々とコミュニケーションが良好に図ることができ、相手の思いや考えを理解し、相手の立場に立って考えることができる教師 ・主体的かつ的確な判断ができ、限られた時間を活用して職務の効率化を図り、組織的に課題解決に取り組むことができる教師 ・教師としての基礎基本（東京都教育委員会が示す「学習指導力」「生活指導力・進路指導力」「外部との連携・折衝力」「学校運営力・組織貢献力」及び、「特別な配慮や支援を必要とする子供への対応」「デジタルや情報・教育データの利活用」等）、人として社会人としてのマナーを身につけた教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

(1) 学校の現状

①学校について

「基礎基本の定着」「若手教員の育成」「自尊感情・自己肯定感の育成」「健康教育の推進」を中心に教育活動を展開した。地域・家庭との協力を得て教育活動の成果を上げていると考える。

②児童について

明るく素直であり、心優しい児童が多い。基本的な生活習慣、学習習慣・家庭学習の定着に課題がある児童や特別に配慮や支援が必要な児童がおり、個に応じた丁寧な指導が求められる。課外活動の金管バンド部・サッカー部・ミニバスケットボール部等の活動にも積極的に取り組んでいる。

③教師について

教職員は子どもの教育に熱心で、職務に取り組んでいる。また、授業の中に積極的に ICT 機器の活用を取り入れようとする教員も増え、すべての学級で、ICT 機器を活用した授業を展開している。しかし、経験が少ない教員が多いため、教科指導専門員の指導を受け、経験のある教師が若い教師を育て、教育活動の工夫・授業改善に努めている。

④保護者・地域について

地域の学校という意識が高く、学校を愛し支援して下さる方が多い。保護者・地域の方々は、学校教育に理解を示し、とても協力的であり、毎日児童の登校時間、下校時間に横断歩道に立って見守って下さったり、パトロールをして下さったりしている。

(2) 前年度の成果と課題

- ①「課題解決型授業展開の工夫」をテーマにして授業力の向上に取り組んだ。小中連携事業（中学校1校、小学校2校）の中で、授業研究を進め、教員の授業力向上を目指した。学力の向上を図るため、児童の学習内容の定着状況を定期的に診断し、指導に生かしていく。
- ②基礎基本の定着を目指し、放課後の補習教室、3月に実施したプレテストの結果分析を行い、学年ごとに具体的な対策を立て学習活動を行った。そして、年度初めに次年度の学年に引き継いだ。特に、全職員が指導にあたる放課後補習教室「あおいゆうやけ教室」やつまずきの解消のため「そだち指導」により、個に応じた指導を充実させている。今後も継続して取り組む。
- ③あいさつ運動、地域貢献の取組（全児童による地域清掃）を復活させ、今年度実施し地域との交流を進めることができた。また、地域のお祭りやPTA主催の子供フェスティバルなどの催しにも、学校として協力し、児童や教職員の参加を促すことができた。
- ④行事の充実、部活動（金管バンド部・サッカー部・ミニバスケット部）の指導により、感動体験や達成感を感じる機会を増やし、自尊感情を高める活動を工夫した。継続して取り組む。
- ⑤A Iドリルの活用を推進し、授業の中や家庭学習での取り組み方を推進している。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9
1	学力向上アクションプラン	○	○	◎		
2	いのちを大切にす教育の推進	◎	◎	◎		
3	健やかな体の育成	◎	◎	◎		

5 令和7年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン			
A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●	
基礎・基本の定着	85%	12月の確認テストの結果は、平均通過率は87.2%であった。	目標を達成することができているが、引き続き基礎学力の定着を図る。	◎	
B 目標実現に向けた取組み					

新規・継続	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	足立スタンダード(虎の巻)	全教員	通年	・年度初めに、学校長、学力向上主任から本年度の取組について説明。 ・前期、後期ごとに、学年での取り組みについて(計画⇒実施⇒反省⇒改善)	・年間2回検証授業 ・定着度確認テスト (7月、12月、3月実施)	3月に実施する定着度確認テストで目標値を通過する児童90%を目指す。	12月に実施した定着度確認テストでは、目標値を通過した児童は、国語88.2%、算数86.8%、全体では87.2%であった。	クラス間によっても通過率に差が出てしまうところがあった。引き続き課題解決に向けての取り組みを行っていく。	○
2 新規	昼学習	全児童 国語 算数	毎週 火、木 給食後 15分間	【指導者体制】 担任・専科 【取り組みのねらい・目的】 学習内容の復習・確認を行う。 【使用教材】 プリント教材、AIドリル、漢字ドリル等	定着度確認テスト (7月、12月、3月実施)	3月に実施する定着度確認テストで目標値を通過する児童90%を目指す。	12月に実施した定着度確認テストでは、目標値を通過した児童は、国語88.2%、算数86.8%、全体では87.2%であった。	15分間の時間を確保するための工夫が必要であるが、週3日間(1日は読書)の実施は、全学年ほぼ達成している。	◎
3 継続	放課後補習教室	全学年 (学力調査の結果から抽出した児童)	毎週 木 放課後 45分	【指導者体制】 全教員・学習支援員・ 【取り組みのねらい・目的】 勉強ができる喜びを味わわせるために実施。つまずきをさかのぼり、基礎となる問題や演習問題を中心に少人数指導。苦手なところを克服させる。 【使用教材】 プリント教材(次へのステップ、東京ベーシックドリル等) AIドリル	定着度確認テスト (7月、12月、3月実施)	3月に実施する定着度確認テストで目標値を通過する対象児童70%を目指す。	12月に実施した定着度確認テストでは、対象児童の通過率は68.3%であった。	計画通り実施できている。児童の学習意欲を引き出すために、AIドリルの利用などの工夫をしている。対象児童で、まだ、つまずきが克服されていない児童がいるので、引き続き補習教室を実施していく。	○
4 継続	サマースクール	全学年 (学力調査の結果から抽出した児童)	夏休み 期間中 の10日 各日60分	【指導者体制】 全教員、中学生ボランティア 【取り組みのねらい・目的】 教職員を全学年に分担し、少人数指導のもと進める。過去学年にさかのぼったつまずきの克服や、現学年の授業内容で理解が完全でない内容の補充問題を行う。 【使用教材】 プリント教材(次へのステップ、東京ベーシックドリル等) AIドリル	着度確認テスト (7月、12月、3月実施)	3月に実施する定着度確認テストで目標値を通過する対象児童70%を目指す。	12月に実施した定着度確認テストでは、対象児童の通過率は68.3%であった。	熱中症警戒アラートの発令や校内の改修工事の騒音などで児童の学習意欲が低下することを心配したが、どのクラスも集中して取り組めた。	◎

5 継続	家庭学習の手引き発行	全学年 全員	年1回 4月	【取り組みのねらい・目的】 「開かれた学校づくり協議会」と協力し、年間を通じた家庭学習の啓発をねらいとした家庭学習の手引きを4月に発行する。	児童アンケート「学年の実態に応じた学習時間」	児童アンケート「家庭学習の目標時間達成」を前年度以上とする。	学年に応じた学習時間に達成できた児童は、83%で昨年度を下回ってしまった。(昨年度より5%減)	家庭学習の大切さを保護者会等で伝えていき、学習内容もAIドリルを活用するなど工夫し、学年に応じた家庭学習の時間が確保できるようにしていく。	△
6 継続	組織的な取組による教師力の向上	全教員	通年	【取り組みのねらい・目的】 ①小中連携を推進し中学校教員の専門性や指導技術を小学校にも取り入れ、小学校教員の指導力の向上を図る。 ②若手教員対象に教科指導専門員による指導を受け、足立スタンダードに基づいた課題解決型授業について学ぶ。 ③校内での授業をお互いに参観する機会を増やす。	児童アンケート(12月)	児童アンケート「授業がわかりやすい」の項目で肯定的評価90%を目指す。	児童アンケートで「授業が分かりやすい」の項目で肯定的評価は、89.2%であった。	ほぼ目標値に達しているが、引き続き教員の授業力向上を図っていく。図っていく。校内研修を充実させ、教員同士がお互いの授業を観る機会を増やしていく。	◎
7 継続	放課後自習室「学viva(まなびば)」	第5・6学年児童	通年 火、金	【取り組みのねらい・目的】 家庭学習など、学習習慣が身に付いていない児童に対して、自主的に学習に取り組み時間と空間を提供する。	学年に応じた学習時間	児童アンケート「家庭学習の目標時間達成」を前年度以上とする。	児童アンケートで「授業が分かりやすい」の項目で肯定的評価は、89.2%であった。	計画通り実施することができた。保護者にも、引き続き家庭学習の大切さを伝え、家庭との協力体制を整えていく。	○
8 継続	学力調査後と確認テスト後の学年面談	全教員	確認テスト後 7月 12月 3月	取り組みのねらい・目的 ①確認テスト後に、学年ごとに調査結果の分析・検討を行い、具体的な対策を検討する。 ②児童の変容を記録する	定着度確認テスト (7月、12月、3月実施)	3月に実施する定着度確認テストで目標値を通過する児童90%を目指す。	12月に実施した定着度確認テストでは、目標値を通過した児童は、国語88.2%、算数86.8%、全体では87.2%であった。	各学年と面談をし、国語と算数のそれぞれの児童のつまずきを分析させ、具体的な手立てを考えさせた。年間3回の定着度確認テストで経過分析を行い、手立てを改善させた。現学年での分析・結果を次年度の学年に引き継いでいく。	○
9 継続	ICTを活用した授業の取組	全教員	通年	【取り組みのねらい・目的】 タブレットを活用した学習活動を行う。授業観察(管理職)AIドリルを効果的に活用し、学力向上を図る。 教師がICTを活用し授業改善を行い、授業力向上をめざす。	教員一人一人が使用する目標を決める。	教員が決めた目標100%の実施をめざす。	各教員が設定した目標に対して、95%以上を達成した。	各教員が設定した目標に対して、95%以上を達成した。全教員がタブレットで、デジタル教科書や様々な教育ソフトを授業の中に取り入れ授業改善を目指した。教員のスキルに差があるので、校内での活用研修を3回実施した。	◎

重点的な取組事項－２		いのちを大切にする教育の推進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
いのちを大切にする教育の推進		児童アンケートで、「友達を大切にしている」の項目で児童の割合 90%	児童アンケートの結果、肯定的評価が 95.2%であった。	継続して、いのちを大切にする教育を推進していく。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自尊感情・自己有用感の育成	①保護者アンケートで「楽しく学校生活を送っている」の項目肯定的評価が 90%以上 ②児童アンケートで「学校に行くのは楽しいか」と回答する児童の割合、90%以上	①毎月 25 日を「青井小いのちの日」として、児童朝会の校長講話とすべての学級の道徳の時間での「生命尊重」の授業を実施する。 ②金管バンド部・サッカー部・ミニバスケットボール部の活動を充実させ、感動体験や達成感を味わう機会を設ける。 ③「あいさつ運動」の推進	児童アンケートで、「友達を大切にしている」と肯定的に回答した児童の割合は、95.2%であった。また、「学校へ行くのが楽しい」と肯定的に回答した児童の割合は、88.6%であった。今年度から全学年であいさつ週間を設け、あいさつ運動を行うことができた。	①道徳教育、人権教育の推進により、友達への思いやりや生命を尊重する態度を引き続き指導していく。 ②部活動の取り組み方については教員の働き方改革とのバランスを考えて改善しながら取り組んでいく。	◎
読書活動の充実	①児童アンケートによる「読書量の増えた児童」の割合 95%以上 ②お話し会、読み聞かせ等の機会を年間各学年 2 回以上 ③読書の時間の確保 ④読書週間の充実	①朝読書等の読書タイム（15 分）を週 2 回、年間 70 回以上実施する。 ②読書ボランティア・図書館支援員等と連携し、読み聞かせ、ブックトークを実施する。（年 2 回）、「大お話し会」の実施（年 1 回） ③図書室を開放する時間を増やし、読書機会を多く設定する。	昼学習の読書タイム（15 分）を年間を通して実施した。 本の貸し出し状況は、昨年度より大幅に上回った。「読書量の増えた児童」の割合も、85%を超え昨年度より増加した。 図書ボランティアによる「大お話し会」は、保護者の参観も増え、大盛況であった。	引き続き、図書館支援員の協力を得ながら、学校図書館計画に沿って読書活動を推進していく。 図書ボランティアとの連携を強化しながら読書活動を充実させていく。	◎
特別支援教育の推進	①特別支援学級との交流及び協同学習を年間通して実施する。 ②地域の障がい者施設との交流を年間 1 回以上実施する。 ③全学級において、障がい者理解教育のための授業を年 1 回以上実施	①学校行事、縦割り班活動だけでなく、教科・領域においても交流及び協同学習を実施する。 ②地域の障がい者施設との交流を低学年で実施する。障がい者理解と共生社会の担い手としての意識を芽生えさせる。 ③外部講師等による講演会を年 1 回以上実施する。	①通常学級と特別支援学級との交流及び協同学習を年間を通して実施することができた。 ②今年度の障がい者施設との交流は、「あいさつ運動」や地域の祭り、PTA主催の児童フェスティバル等で行うことができた。 ③全学級において、障がい者理解のための授業を年 1 回以上実施することができた。また、学校保健委員会で児童理解のための講演会を開くことができた。	引き続き、児童の障がい者理解教育をさらに進め、互いを尊重し認め合う態度を養っていく。	◎

重点的な取組事項－3		健やかな体の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
進んで健康な暮らしをする態度の育成		児童アンケートで健康への関心が高まったと回答する児童が90%以上	児童アンケートで健康への関心が高まったと肯定的に回答する児童の割合は、91.1%であった。	昨年度より、健康な生活という点で、児童の関心は、高まったが、生活習慣等の指導が必要である。また、保護者会等で、保護者に伝え、家庭との連携を図る必要がある。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体力づくりの習慣の定着	①1日30分、外遊びか運動をする児童が90%以上 ②体力調査で区の平均を上回る項目数を7割以上	①持久走大会、長縄チャレンジ、なわとび集会の実施 ②体育科の授業改善による運動の日常化の推進 ③投力向上のための指導方法の開発と実施	①持久走記録会、長縄チャレンジ、縄跳び集会を計画的に実施することができた。 ②校内の体育部が中心となって運動の日常化を進めているが、定着していない。 ③投力及び調整力の向上のための教材を工夫し、体育の授業での取り組みを進めることができた。	体力づくりの習慣を定着させるためには、現在の取り組みの他にも、新たな取り組みを考える必要がある。	◎
健康教育の推進	①う歯の受診率90%以上 ②生活実態調査で、早寝早起きの習慣がついた児童80%以上 ③2月の生活実態調査で、朝食の摂取率を100%	①歯科検診を年間2回実施する。個人面談の際に未治療者に治療勧告をする。 ②養護教諭による、保健指導を年間15回実施する。 ③生活実態調査を年3回実施し、規則正しい生活を実践するための関心と意欲を高める。	①虫歯のある児童は、すくないのだが、う歯の治療率は41.5%であった。給食終了時の歯磨きタイムは、定着してきた。 ②生活実態調査で、早寝早起きの習慣がついた児童は、78%で、昨年度より下回った。(昨年度より3%減) ③生活実態調査で、朝食の摂取率は、98%で、昨年とほぼ同じ結果となった。	引き続き、健康教育については、指導を行っていく。う歯治療率は、例年低下している。個別の指導が必要である。	○
食育の推進	①食に関する指導を年間15回以上実施する。 ②残菜率を一か月平均2%以下にする。	①誕生日給食の際に、栄養指導を行う。(年12回)食に関する指導を3回以上実施する。 ②「もりもりウィーク」等で、完食した学級を表彰し、児童の食への関心と意欲を高める。	①食に関する指導を年間15回以上(給食放送も含)実施することができた。特に1年生は、生活科と関連して行った。 ②「もりもりウィーク」期間中の完食率は100%であった。年間を通して、残債率は1.3%になり、目標を達成することができた。引き続き、食の関心を高めるための指導の工夫を行っていく。	引き続き、食の関心を高めるための指導の工夫を行っていく。	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－1 学力の向上

- ・12月の確認テストの結果、国語全校通過率88.2%、算数全校通過率86.8%、平均通過率87.2%であった。各学年と面談をし、それぞれの学年の児童が国語と算数の課題について分析し、具体的な手立てを考えた。国語は全体的な傾向として説明文や物語文など、はじめて読む文章について苦手意識が強く、書いてある内容をとらえ理解することが課題としてあげられる。手立てとして、教科書以外の文章にふれる読書活動を充実させ、読む習慣をつける。また、言葉に関する理解する力も課題となる学年があり、A Iドリルや漢字ドリルなどを用いて漢字や語彙力をつける。算数は、データ分析や活用する力が低く、表やグラフにまとめる学習を丁寧に行い、日常生活から、表やグラフに親しむ機会を増やしていく。国語、算数ともに、A Iドリルを活用し、児童自身が個々の課題を知り、それを補う問題に取り組むようにしていく
- ・家庭学習の目標時間の達成率は、12月の時点で83.0%であった。引き続き指導を継続していく。

重点的な取組事項－2 豊かな心の育成

- ・校長による「いのちの講話」を年間11回、教室では、担任による生命尊重の授業を年間11回児童集会の時間に実施した。児童アンケートで「友達を大切にしている」と回答している児童は95.2%であった。児童の読書活動の充実のため、一人あたりの本の貸出し数を増やす等の取組により、前年度に比べ、学校での図書の貸出量は増加している。児童の個々の読書量も増えている。図書館支援員が週2日の勤務となり図書館の環境が整い、また、図書ボランティアによる読書の啓発活動も大いに役立っている。特別支援教育の充実のため、特別支援学級との交流学习を年間通して行った。また、校内行事の中で各学年と交流活動を行い、運動会の表現では、各学年に入って一緒に練習・発表することができた。今後も児童の実態に応じて行っていく。

重点的な取組事項－3 健やかな体の育成

- ・持久走記録会では、昨年度の反省を生かし、スムーズな運営を行うことができた。練習も安全を配慮し、中休みの時間に3学年ずつの実施とし、混乱なくまた、大きなケガもなく行うことができた。児童は、自己ベストを更新しようと意欲的に取り組むことができた。長縄チャレンジは9月から実施し、3クラスが区の記録を達成することができた。体育科の教員の実技研修を年3回、年間を通して授業を参観する体制を取ったことにより、授業改善につながった。学校保健委員会では、本校の東京都のスクールカウンセラーを講師として迎え、児童理解のための講演会を行うことができた。
- ・学校栄養士と協力して、生活科や家庭科の授業と連携して食に関する授業（食育）を行い、児童が食べ物に興味・関心をもてる機会を与えることができた。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

- ・今年度、地域の催しものやPTA主催の児童フェスティバル等で、学校と地域・保護者との交流の場を増やすことができた。地域の方々には、日ごろから登下校時等に子どもたちを見守っていただき、子どもたちは安全にそして落ち着いて学校生活を送ることができた。また、「運動会」「展覧会」などの行事も開催することができ、たくさんの方に、ご来校いただき、あたたかいお言葉をたくさんいただくことができた。子供たち、教職員にとって大きな励みとなり、次への意欲につながることができた。今後も、様々な場面で、子どもたちの学校での様子を、保護者・地域の皆様に参観していただき、子どもたちを励ましていただきたいと思います。令和8年度も、授業内容の工夫・改善を図り、より学校の教育活動を充実させ、一層充実した教育活動を行っていく所存である。

(3) その他（学校教育活動全般について）

- ・今年度も、保護者・地域の方々のご支援、ご協力のもと、教職員が日常の教育活動等や学校行事を工夫しながら、子供の指導に積極的に取り組んできた。

※保護者のアンケート（12月実施）の結果は、次の通りである。なお、《 》内は、肯定的意見の割合である。

「学校は、教育目標（学校経営方針）や学校の様子などを保護者に伝えている。（ホームページ、C4thH&S、各種配布物など）《96.2%》

「学校は、特色ある教育活動を行っている。（部活動、体験学習等の実施、あいさつ運動など）《84.8%》」

「学校は、学習方法を工夫したり、補習を行ったりして、子供たちの基礎学力向上に努めている。（教科担任制の実施、ICT機器の活用、夕やけ教室、あおいっ子教室など）《91.1%》」

「学校は、子供の体力向上や健康の増進に積極的に取り組んでいる。(短縄月間、長縄チャレンジ、持久走記録会など)《91.1%》」

「学校は、様々な教育活動を通して、命を大切にすることや思いやりの心をもつことの指導に努めている。(道徳授業地区公開講座、「青井小学校『いのちの日』」、縦割り班活動、SOSの出し方教育など)《94.9%》」

「学校は、事故防止に努め、子どもの安全を守るための指導や取り組みを行っている。(安全教室、交通安全教室、セーフティ教室など)《92.4%》」

「学校は、子供の努力を認めたり、励ましたりして温かく接してくれる。《84.8%》」

「学校は、学習規律や生活規律を徹底し、落ち着いた学校生活を送れるよう努めている。《87.3%》」

「お子さんは、明るく元気に学校に通っている。《88.6%》」

アンケートの結果、「学校は、子供の努力を認めたり、励ましたりして温かく接してくれる。」「お子さんは、明るく元気に学校に通っている。」という2項目以外、どの項目も昨年度のポイントを上回る肯定的評価をいただくことができた。今年度、ポイントを下げってしまった2項目については、重く受け止め、児童に対しての接し方について全教職員で課題を見つけ、改善していきたいと思う。

本校は地域、開かれた学校づくり協議会の協力のもと、今年度も花壇、整備を実施することができた。草花を植え育てることは、生命に対する畏敬の念を養ったりするなど、教育的価値が高い。観察や活動・体験を通して、子どもの心を育てていく場として、環境教育の一環として、本校の特色としている。また、金管バンド部の地域行事への参加、サッカー部・バスケットボール部の区内小学校の大会への参加なども行っている。多くの保護者や地域の方々にも、参加と協力を得られている。課外活動は、児童の健全な心身の成長を図る上で、本校にとっては重要な教育活動として位置づけている。しかし、全国的に、教職員の働き方改革が進む中、中学校の部活動の見直しや地域への課外活動の移行などの動きが活発になっているのは事実である。そのような、変革の時期であるので、従来通りの活動の方法から、新たな方策を考え作り上げていかなければならないと考えている。

校内活動では、一年間を通して全学年が交代で、朝のあいさつ運動を行ってきた。地域の方々や保護者の方も参加し、生活指導面でも、挨拶や礼儀の指導の強化にもつながった。来年度も、地域、保護者への参加も呼び掛け、工夫・改善しながら「朝のあいさつ運動」を進めていきたいと思う。

今後も保護者、地域との密接な連携のもと、子供たちを指導していくことの重要性を実感している。教職員の力を結集し、「子どもが安全に楽しく通う学校」を目指して教育内容の充実・改善に努め、「青井Brand(あいさつ・おもいやり・一生懸命)」を身に付けた子供たちの育成を図る。